

新元号『令和』

人々が美しく心を寄せ合う中で、分化が生まれ育つ。
梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。

ゆたあ〜と

発行

小国公立病院
0967-46-3111

おぐに老人保健施設
0967-46-6111

訪問看護ステーション
0967-46-6050

34号

令和1年5月15日

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>



令和元年度の診療体制についてお知らせします

平成三十一年四月からの外来診療医師の異動、看護師配置の件についてお知らせ致します。

まず総合診療科が昨年十二月末に橋本先生ご夫婦が退職され、一月〜三月までの三ヶ月間の空白を済生会熊本病院の中野愛子医師と熊本赤十字病院の藤井巳加医師・伊橋卓文医師で補っていただきました。

四月からは、昨年、県から一年間の予定で派遣されていた下村菜希先生が今年度も残っていただけ事になりました。熊大地域医療支援機構から松田圭史先生が一年間、熊本赤十字病院から續 尚子先生が六ヶ月勤務していただくことになりました。これに片岡副院長を加えて、総合診療科の診療体制を維持していくことが出来る様になりました。

診察日の変更になるのは、産婦人科が、水曜日の午前半日から月曜日の午後半日、整形外科が月曜日・火曜日・木曜日でしたが、四月から火曜日・木曜日・金曜日に変更になります。耳鼻咽喉科は三十年以上、診療を続けていただいた鮫島靖浩先生がお辞めになり、後任の先生を大学から派遣していただきます。



循環器科と泌尿器科は診察の曜日は変わりませんが、月曜日の循環器科が福永崇先生、金曜日の泌尿器科が村上洋嗣先生となります。毎週金曜日に検査の応援に大学消化器外科から来ていただいた中川 茂樹先生が三月までで、二年間国内留学されます。後任はありません。小児科・片岡副院長の外来・外科診察日は変更ありません。

～診療曜日変更～

産婦人科 水曜日 午前 → 月曜日 午後
整形外科 月曜日/火曜日/木曜日 → 火曜日/木曜日/金曜日
(火・金は10時30分前後より診察開始)

お知らせです

～医師変更～

総合診療科 藤井巳加医師／伊橋卓文医師／中野愛子医師
→ 松田 圭史医師／續 尚子医師
循環器科 山本正啓医師 → 福永 崇医師
泌尿器科 近浦慶太医師 → 村上 洋嗣医師
耳鼻咽喉科 鮫島靖浩医師 → 熊大病院より派遣医師



医師の勤務体制の厳しさは変わりませんが、それと同様、いやそれ以上に厳しいのが看護体制です。

現在の二病棟を維持していくのは困難で、日赤・熊大・復興応援ナースの派遣で何とか凌いで来ましたが、それも困難になってきました。

現在二病棟で50、60人の入院があります。一病棟での入院は、30人程度しか受けられませんので、病床が足りなくなります。病床に空きがなければ救急は受けられなくなります。一病棟にすれば病院経営もさらに悪化すると考えられます。

それで苦肉の策として、調整を行い、外来看護師の中から数名を病棟勤務へ異動しました。

しかし、元々少なかった外来看護師がさらに減少しましたので、各科の診察時間、診察後の処方箋等をお渡しするのにも、今まで以上に時間がかかると思います。出来るだけご迷惑をかける様努力致しますが、病棟を残している

く為に必要なことであると理解していただければと願っております。

世間では、医師不足が騒がれておりますが、当院では医師不足はもちろんですが、喫緊の問題は看護師と看護助手の不足です。

住民の皆様にご利用があります。ご近所やお知り合い、ご親族に遠方で働いている看護師さんがいましたら御紹介、あるいは当院で働くことを勧めただければ幸いです。看護助手は何も資格は必要ありませんので、未経験者も大歓迎です。もちろん、性別・年齢も不問です。

この小国郷の医療と福祉を守っていくためにも住民の皆様のご協力が不可欠です。どうか宜しくお願い致します

小国公立病院

院長

坂本 英世



～老健便り～

皆さん、一緒に楽しみましょう♪

平成31年3月29日 金曜日に、阿蘇小国ライオンズクラブ主催の施設慰問が行われ、熊本市より『藤本流喜代則会』の皆様方が2年ぶりにお越し下さいました。



三味線の音色に合わせた詩や踊り、語りなど、入所の方々は、昔懐かしい歌を一緒に口ずさみ、手を打たれておられました。

中でも「炭坑節」の歌が流れ出すと、誰もが知っている炭坑節ならではの手の振りを、両手を広げ踊りだす方もあちらこちら。

日頃、職員が入所者の方と共に歌うことがない民謡や、滅多に耳にする機会のない三味線の落ち着いた響き、また、お越し頂いた方のお召しになられている鮮やかな着物姿にも興味がある様子でした。

皆さん、終始笑顔で、とても楽しい時間を過ごしました。

阿蘇小国ライオンズクラブ、そして藤本流喜代則会の皆様。ありがとうございました。



～医師紹介～



まつだ けいし
松田 圭史 医師 専門:総合診療科

今年4月より新たに小国公立病院に赴任致しました総合診療科の松田圭史と申します。

あまり馴染みがないかもしれませんが、総合診療科は循環器内科や整形外科などと同じように一つの専門科として最近位置付けられました。

高齢化が進む日本(小国はさらに進んでいるようです)において、複数の慢性疾患を有する患者が増加し、治療だけでなく健康の維持・増進や予防も必要となっており、また医療・保健・福祉などの連携も重要視されるようになりました。このような諸問題に対応するために生まれたのが総合診療専門医です。言い換えると地域医療の専門医とも言えます。



これまで熊本大学病院や公立玉名中央病院で総合診療・地域医療を学んできましたが、小国はその実践の場として格好の環境だと思います。まだまだ未熟ではありますが、病院スタッフ・地域の皆様と協力し、よりよい医療を作っていければと思っていますので今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



つづき なおこ
續 尚子 医師 専門:総合診療科

今年4月に小国公立病院に赴任しました續と申します。半年間勤務させて頂く予定です。どうぞよろしくお願い致します。

小国公立病院の総合診療科は現在常勤4名で外来診療、入院診療を行っております。入院診療では、細菌性肺炎、尿路感染症などご高齢の方に多い疾患から、心不全や脳血管疾患、終末期の方まで幅広く診療を行っております。より高度で専門性が求められる状態の場合は、高次医療機関への紹介を行う場合もあります。

外来診療では糖尿病、高血圧、脂質異常症など、生活習慣病のフォローアップなどをかかりつけ医の役割も含め、行っております。平日は午前8時45分～午前12時まで毎日、時間外は救急車、walk-inの患者様への診療を行っております。

小国町は患者様の人数に対しての病院数、医師数が少ない状態で、ご迷惑をお掛けする場面が多々あるかと存じます。少しでも地域医療に貢献できるよう、努力して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。



～支援看護師紹介～



なかじま あきこ
中島 明子 看護師
3階病棟

熊本赤十字病院から出向で参りました。4月から半年間、3階病棟に勤務させて頂きます。今年で看護師10年目になりますが、久しぶりの病棟勤務や初めての3交代でご迷惑をおかけすることも多いかと思ひます。精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



～新看護師紹介～



たにむら ちから
湊村 力 看護師
2階病棟

4月から2階病棟で勤務させて頂いています。新卒で仕事についてわからないことも多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命勉強し、より良い看護師になりたいと思ひますので宜しくお願い致します。



～介護士紹介～

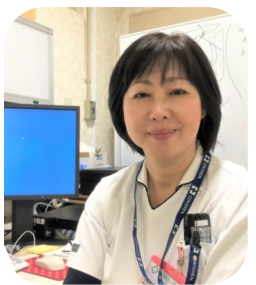


ときまつ すずみ
時松 鈴美 介護士
おぐに老健 通所

以前より、おぐに老人保健施設の介護職員として、利用者様と楽しい時間を過ごしていましたが、これからは、今まで以上に楽しく、またお手伝いしながら貢献できる様、努めて参ります。宜しくお願い致します。



～新任紹介～



きくち かつこ
菊池 勝子 2階病棟看護師長

4月から2階病棟の師長職をやらせて頂く事になった菊池と申します。20年以上、3交替の勤務を経ての現在、毎日の出勤にまだ体が慣れず、バタバタと忙しく過ごしています。

高齢化が進む中、当院でも入院される方は80～90代後半の方がほとんどです。一度入院すると病気はよくなっても、中々体力が回復せずリハビリが必要になってきます。包括病棟へ移っていただき、退院までを支援していく経過をたどっています。自宅へ帰る方、施設に入られる方とゴールは様々ですが、介護、付きそ家族の方も高齢者が多いようです。私も昨年、体の不自由になった母を自宅で看していますが、考えていたよりずっと大変です。思い悩む事もたくさんあります。施設職員の方、ヘルパーさん、娘の支えもあり、どうにか看ることができています。



患者様、家族の負担が少しでも軽減するよう、微力ながらスタッフとともに支えられたらと考えています。よろしくお祈り致します。



おだ ひでみ
小田 栄美 老健看護師長

30数年の病院勤務から、去年6月よりおぐに老人保健施設への異動となり、病院とは少し異なった看護・介護を経験し、このたび、施設看護師長の身命を受けました、小田と言います。

まだ、毎日が勉強の日々で、ベテランスタッフに助けをもらいながら、勤務しています。当施設においても、入所者様に平均年齢も90歳を超え、介護の重度化、認知症患者の増加など、超高齢化を実感しています。在宅復帰、在宅療養支援のための施設ですが、介護者の問題や住宅問題などで、施設での生活を余儀なくされる方が多くいらっしゃるのが現状です。

利用者様が安心・安全・快適な療養生活が送れるように、スタッフ一丸となって取り組んで参りたいと思ひますので、宜しくお願い致します。



次号のゆたあ〜と新聞は、令和元年7月中旬に発行予定です。お楽しみに!!